

仙台「みやぎ円卓会議」が運動会

競技通じ防災学ぶ

東日本大震災の教訓伝承と防災啓発の強化を目指す官学民の連携組織「みやぎ防災・減災円卓会議」は、被災時に役立つ知識や行動を競技に取り入れた防災・減災運動会を、仙台市若林区荒浜の交流拠点「深沼うみのひろば」で開いた。

円卓会議会員の研究者、行政・報道関係者や、かほく防災記者（河北新報社主催）の中高生ら30人が参加。東北福祉大、宮城教育大の学生と、復興支援アイドル「みちのく仙台ORI☆姫隊」が運営に協力した。

かほく防災記者で仙台青陵中等教育学校5年の高橋杏奈さん（16）が「私たちは安全にけがなく、正々堂々と戦い、今日学んだことをこれからの災害への備えに生かすことを誓います」と宣誓した。

参加者は、エコノミークラス症候群を予防する体操や防災知識を問う〇×

とを
ちの
の地
域守

クイズの後、3チームに分かれ、水に見立てたボールを運ぶバケツリレー、AED（自動体外式除細動器）の手順を確認する応急手当でリレーで点数を競った。

防災教育に取り組む市民団体「わしん倶楽部」（仙台市）は、乾物を使った防災食の作り方を実演。みちのく仙台ORI☆姫隊は手話を振り付けに取り入れたステージ、東北福祉大の学生は防災レンジャーショーを披露した。東北大災害科学国際研究所の栗山進一所長は総括で「災害が起きたら何をするかはもちろん大事だが、建物の耐

バケツリレー、応急手当で体験



みちのく仙台ORI☆姫隊と東北福祉大の学生による防災ショー

震化、家具の固定など前もってできることをしてほしい。障害のある人と普段から接していると、災害時にも意思の疎通ができて全員で助かることにつながる」と呼びかけた。会は15日であった。